

宗田一先生を偲ぶ

日本医史学会関西支部長 山中太木

宗田一先生が急逝せられ、寂しき極みです。

謹而在りし日の御恩を感謝し、合掌して御冥福をお祈り申し上げます。

戦後、アツツ島の守護勤務から御元気に帰還になり、自筆のスケッチ葉書を拝受して嬉しく、お喜び申し上げて以来、京都の桂にお住いになり、毎月京都府医師会館の例会でお話を承わめることは、無上に有り難い楽しみでありました。

先生の御鴻恩は無限であるが、先ず第一に「日本の祭祀」（アート紙原色刷）迎春の祭祀、節分と追儺、雛流しと曲水宴、鎮花祭、(Neue Informa 一九八七年、一月―四月、別刷)日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社編集として、その記述たるや実に絵心豊かな宗田先生ならではの深くて精確、繊細を極め、冬至・立春・春分、冬至は唐の正月、嘉賀美能加和宝船(五條天神社) 神求・勝餅、護符、饒道祭(奈良、大神神社)、鎮火式(八坂神社) オケラ、白朮、蒼朮(生薬)(弓削政氏撮影)、吉田神社、追儺式、毘沙門堂の鬼踊り、淡島願人、加太淡島神社、絵馬堂、雛流し、粉河の流し雛、大神神社(三輪)、狭井神社薬井、山百合、水谷神社の鎮花祭等真に清々しい記録である。清められるのは、日本人だけではない。

大著の『図説日本医療文化史』(思文閣出版)は正に独特な著者の活きた躍動する不滅の文化史大著で国宝的な価値がある。

また、連続して拝受した医療文化史各論の別刷は各冊夫々に貴重なる得難い写真が掲載せられて(5)興隆の世紀 理

論的医学の胎動　イアトロ化学、イアトロ物理学、臨床医学の再出発、ジデナムとボイル、プールハーフェ、(6)革新の世紀　ペッテンコーフェル・ルードウィヒ一世、マクシミリアン二世、ウィルヒョウ(統)、病理論医学の台頭、細胞病理学とコンタギオン、病理論と外科学、免疫療法の出現、人痘接種法、牛痘接種法、ワクチン療法、抗毒素血清療法、免疫学の進展、結核対策、等々宗田先生渾身の筆致は鋭く連続して　結核対策、エールリッヒの色素療法、化学療法、感染症の化学療法、代償療法剤ホルモンの発見、等々とどまるところがなかった。従つて私共は安心して宗田先生健在に甘えきつて午後遅く、長門谷洋治博士からの急電にて、高槻病院に駆け込んだ時は既に遅く、救急処置観察室の病床に人事不省の応急手当を受けて居られ、対話も不可能で熱心な主治医も予後の話は雲らせられたのであつたし、そのまま祈りの中に逝去せられた。

宗田先生には帝釈天と訶梨勒その他、貴重な事なども教え頂いたが、近著「幕府典薬頭今大路の転居」(漢方の臨床、三五巻一号抜刷、一九八八)にも見る如く、健筆と同時に精確で、図解を加えられて躍動が伝わる。拙著『日本細菌学外史』についても多大の宣揚を賜わり、司馬遼太郎氏(胡蝶の夢)と共に多大の感動を忘れることは出来ない。

摺筆に当たり重ねて合掌して、之等偉大なる故人の在りし日を偲びつつ御冥福を謹而祈り申し上げます。合掌。